



## 生息環境・分布

河川中流域の大型の淵から下流域、汽水域、湖沼などに分布。流れの緩やかな淵や落ち込みの底層部、砂泥底を主な生息場所とし、濁りのあるところに生息する。

**分布：**ほぼ全世界の温帯と熱帯に分布する

国内全域に分布し、北海道でも全域に分布する（自然分布かどうかは不明）。

十勝地方では、十勝川の中・下流域や浦幌十勝川の下流域、

または河跡湖に生息する。

## 食性

底生動物と泥上の底生付着藻類やその分解物、貝類。

## 繁殖生態

産卵期は6～8月。産卵期にはオス・メスとも体全体に小型の追星を生ずるが、婚姻色は現れない。

産卵場所は浅い池の沿岸や水の停滞した河岸など。まずメスが、水面に垂れ下がる植物や水中に繁茂する植物根を掘り起こし、それらの水草を乗り越えながら尾ビレで水をたたいて産卵する。これを1～数尾のオスが追って、同じく水草を乗り越えて放精するという。

産卵数は1回に20～60万粒（産卵期に2～3回の産卵をお

こなう）、15℃で6日、20℃で4日、25℃で3日でふ化する。

## 他生物との関わり

フナと一緒に飼うと、コイが中層にフナが底層に分かれる。産卵場所や幼魚生育のために、ヨシなどの植物が淵や平瀬

に生育していることが必要。

## 興味深い話

- 血液は強壮剤として利用。
- 初春が最も美味であるとされ、洗い、こいこく、中華の丸揚げといった料理法が有名。
- 遊泳速度は時速6 km程度である。

■餌の採り方が独特で、吻（口先）を砂泥の中に入れて砂ごと餌を吸引し、口の中で餌だけを分けてのどに送り込む。

## 配慮事項

生息場所は淵や水深のある底層部であるため、河床の平坦化や水深の減少には影響を受けやすいと考えられる。

また、産卵場所や幼魚生育のためには、大きな入り江などの空間に、水中植物、湿性植物などが繁茂しているところも必要。



人工水路に放されているコイ（岐阜県郡上八幡）。

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チヨウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・ワシ・タカ）  
鳥類  
樹林

### 参考文献

「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲 監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996

「検索入門 川と湖の魚①」川那部浩哉・水野信彦、保育社 1989

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監

修、山と渓谷社 1989

「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、保育社 1963（1976全改訂新版）